

48 . カツボル

ある、天気の良い午後、アナグマのカツボルは、川下りに出かけました。彼のボートは椰子の殻を半分にしたものでした。

彼は誰かが呼びかけても、遠くには行きませんでした。「こんにちは、友だちのカツボル！こんな天気の良い午後にどこへ行っているんだ？」

「ああ、君か、友だちのウナギ。」とカツボルは言いました。「僕は、残酷な鬼のダラガンガンと戦いに行くところだ。」

「君には助けが必要かもしれない。君と一緒に行かせてもらえるかなあ？」とウナギは言いました。

「どうぞ、来てくれ。」カツボルが言いました。

彼らは一緒に行きました。

やがて、誰かがカツボルにまた呼びかけました。

「こんにちは、友だちのカツボル！この天気の良い午後に、どこへゆこうとしているんだい？」

「ああ、君か、友だちのカニ！」カツボルは言いました。「僕はダラガンガンと戦うために出かけているんだ。友達のこのウナギも僕と一緒にダラガンガンと戦うために行ってくれているんだ。」

「僕もついて行けるかなあ？」とカニは言いました。

「いいとも。」

そして三匹は川を下って行きました。

遠くに下ると、誰かがまた、カツボルに呼びかけました。それは、クパパホンという魚でした。

「どこへ行っているんだ、友だちのカツボル？」クパパホンは言いました。

「僕はダラガンガンと戦うために下って行っているんだ。友だちのウナギ、カニも彼と戦うために僕と一緒にいるんだ。」

「仲間に加わってもいいかなあ？」とクパパホンは言いました。

48 . カツボル

「付いて来いよ。」とカツボルは言いました。

そして、彼らは旅を続けました。カツボル、ウナギ、カニ、そしてクパパホン。川を遠く下って、スズメバチにプタクテが加わりました。更も遠くに下ると、友だちの石が加わりました。

ついに、彼らはダラガンガンの家に来ました。彼らが幸運だったことには、ダラガンガンは家にいませんでした。

「友だちの石、君は階段の上り口にいてくれ。」カツボルは言いました。

石は階段の上り口に着きました。

他の者たちは階段を上りました。

「友だちのウナギ、君の場所は、階段の一番上だ。」とカツボルは言いました。

「了解した。」とウナギは言いました。

他の者たちは家に入って行きました。

「兄弟のカニ、ダラガンガンの水瓶に入ってくれ。」カツボルは言いました。

「いいよ。」とカニは言って、瓶に入って行きました。

「君、友だちのクパパホン、暖炉のところにいてくれ。」カツボルは言いました。

「了解した。」とクパパホンは言いました。

「僕はどうしたらいいんだ、友だちのカツボル？」プタクテは言いました。「どこにしようか？」

「きみは、どこでも好きなところに居たらいいんだ、友だちのプタクテ。」

「僕は、それなら、プザーになるんだね。」とプタクテは答えました。「でも、君はどうするんだ？」

「僕はダラガンガンの寝室に行く。」とカツボルは言いました。

日暮れになって、ダラガンガンは家に帰ってきました。彼はまだ、離れていましたが、友だちたちは、彼が近づいている音を聞けました。地面は鬼の重い足音に、震えました。

ダラガンガンは、まっすぐ彼の家に歩いて行きました。カツボルと彼の友だちは、静かに待っていました。

「俺は、とっても腹が減った。」と、ダラガンガンはひとりごとを吼えました。彼の声は十分低かったのですが、それは、カツボルと彼の友だちには、雷のように聞こえました。「そうだなあ、朝ごはんから、何か残していたかなあ。」とダラガンガンは続けて、台所へ進んでゆきました。

彼が、暖炉で深鍋のふたを持ち上げている間に、クパパホンは、灰と燃え殻を彼の目に吹きかけました。

ダラガンガンは彼の水瓶に急ぎ彼のメイは言った灰と燃え殻を洗い流そうとしました。しかし、彼が手を瓶に浸した時、カニが彼の指をはさみ、痛みのために、わめき声をあげました。

「さあ、お前の最後の準備をしろ、残酷なダラガンガン。」とクパパホンとカニは言いました。

ダラガンガンは、寝室へ逃げようとしてしました。彼がドアを開けた時、臭いをかぎました。

次に彼は窓を開けようとしてしましたが、彼がそうする前に、ブタクテが彼の顔、耳、首、そして腕を痛みのために、うめき声をあげるまで、刺しました。

今や、ダラガンガンが考えられるただ一つのこととは、逃げることでした。そこで、彼は中央ドアに向かって走りましたが、ウナギがそこで待っていました。彼の足は、彼がウナギの背中に足をかけた時、滑りました。彼は階段を頭から落ちて行きました。彼の頭はそこで彼を待っていた石に当たりました。それが、ダラガンガンの終わりでした。

そのあと、平和がこの地方に戻ってきました。林と平原の動物たちはもう残酷なダラガンガンうい恐れる必要はなくなりました。

カツボルと彼の友だちは、ダラガンガンの家で楽しく暮らしました。

#### 練習問題

##### 語彙の学び

次の言葉の意味を辞書で調べなさい。その言葉を使って、文章を作りなさい。

- 1 . ogre
- 2 . hailed
- 3 . journey
- 4 . cinders
- 5 . howled

物語の詳細を組み立てなさい。

次の出来事を起こった順番に番号をつけなさい。

- ( ) カツボルは川下りに行きました。
- ( ) ダラガンガンは寝室へ逃げようとしてしました。
- ( ) ダラガンガンは階段から落ちました。
- ( ) カツボルと彼の友だちは、ダラガンガンの家で暮らしました。
- ( ) カツボルと彼の友だちは、ダラガンガンと戦うために出かけました。
- ( ) ダラガンガンが死んだ後、この地方に平和が帰ってきました。

#### 明確化と発展の評価

- 1 .ダラガンガンを打倒するのに、カツボルの役割は何でしたか? 「黒幕」という言葉が、彼の役割を表現するのに、適していますか?
- 2 .あなたは、あなたが立案者の役割を負って取り組まなければならない状況に、出くわしたことがありますか?
- 3 .この物語の中で、協力の価値について、描かれていましたか? あなたの答えを立証しなさい。